

## 第3章 調査のまとめ



## 1. 調査のまとめ

## 男女平等・男女共同参画に関する意識

結果のまとめ	前回調査との比較
<p><b>【問1 分野別の男女の地位の平等感】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・＜男性優遇＞（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）は、『政治の場』が約8割（83.8%）、『社会通念・慣習・しきたりなど』が約8割（81.5%）、『社会全体』が約8割（75.3%）を占めている。</li> <li>・『学校教育の場』は、「平等になっている」が約5割（48.6%）と最も多くなっている一方、「わからない」が約3割（28.1%）と次いで多くなっている。</li> <li>・「平等になっている」は、すべての分野で男性が女性を上回っている。</li> </ul> <p><b>【問2 性別役割分担意識】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方は、＜賛成＞（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が約3割（25.4%）となっている。</li> <li>・『結婚は個人の自由だから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』、『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』という結婚観は、＜賛成＞が6割以上を占めている一方、＜反対＞（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）は約2割となっている。</li> <li>・『男性も家事・育児・介護に積極的に参画した方がよい』という考え方は、男女ともに＜賛成＞（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が9割を超えているが、「賛成」は、女性が約7割（72.4%）、男性が約5割（49.8%）で女性が男性を約23ポイント上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『政治の場』や『社会全体』ではあまり変化が見られないが、『社会通念・慣習・しきたりなど』では＜男性優遇＞が増加している。</li> <li>・『職場』では平等感が高まっている。</li> <li>・『学校教育の場』は、＜男性優遇＞が増加し、「平等」は減少している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方は、＜反対＞が増加し、＜賛成＞は減少している。</li> <li>・『結婚は個人の自由だから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』という考え方は、積極的な賛成意見は女性で増加傾向にあるが、男性では変化は見られない。</li> <li>・『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』という考え方は、男女ともに積極的な賛成意見が増加している。</li> <li>・『男性も家事・育児・介護に積極的に参画した方がよい』という考え方は、女性で積極的な賛成意見が増加しているが、男性ではあまり変化が見られない。</li> </ul>

結果のまとめ	前回調査との比較
<p><b>【問3 女性が職業を持つことについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男女ともに＜就業継続型＞（子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい）が4割台で最も多くなっている一方、＜出産退職・再就職型＞（子どもができるまでは、職業をもつ方がよい）は、女性が約2割（24.7%）、男性が約3割（33.7%）で、特に30代、50代、60代で男性が女性を大きく上回っている。</li> <li>＜就業継続型＞は男女ともに共働きである人の方が多く、＜出産退職・再就職型＞は男女ともに夫（妻）だけが働いている人の方が多い。</li> </ul> <p><b>【問4 性別による役割分担の希望と選択】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>性別による役割分担を理由に自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったことについて、「なかった」は、男性が約9割（91.4%）、女性が約7割（65.9%）で男性が女性を約26ポイント上回っており、特に男性はすべての年代で8割を超え、女性を上回っている。</li> <li>「仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかったことがあった」は、女性が約2割（17.9%）、男性が1割未満（2.4%）で女性が男性を約16ポイント上回っている。</li> </ul> <p><b>【問5 「多摩市女と男の平等参画を推進する条例」の認知度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「知らない」が約7割（69.1%）で最も多く、一方、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」は約3割（28.1%）、「内容まで知っている」は1割未満（1.3%）となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>＜就業継続型＞は、女性で増加し、男性では変化は見られない。</li> <li>＜出産退職・再就職型＞は、女性で減少し、男性で増加している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>男女ともに「なかった」は増加傾向にあるが、前回調査でも男性が女性を上回っている。</li> <li>女性で「仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかったことがあった」は減少している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回とほぼ同様の傾向となっている。</li> </ul>

## ワーク・ライフ・バランスについて

結果のまとめ	前回調査との比較
<p><b>【問6 ワーク・ライフ・バランスの考え方に対する賛否】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「賛成」が約7割（69.1%）で最も多くなっており、＜賛成＞（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）は約9割（91.1%）を占めている。</li> <li>・「賛成」は、女性が約7割（74.7%）、男性が約6割（63.1%）で女性が男性を約12ポイント上回っており、特に30代で女性が約8割（82.5%）、男性が約6割（56.8%）で女性が男性を約26ポイント上回っている。</li> </ul> <p><b>【問7、8 生活の中でのワーク・ライフ・バランス】</b> （希望・実際）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（希望）について、女性は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」が約3割（27.1%）、男性は「仕事と家庭生活をともに優先したい」が約3割（32.5%）で最も多くなっている。</li> <li>・（実際）について、女性は「家庭生活を優先」が約3割（34.7%）（希望は18.2%）、男性は「仕事を優先」が約3割（30.6%）（希望は4.7%）で最も多くなっている。</li> <li>・（実際）で「仕事を優先」は、すべての年代で男性が女性より多くなっており、特に子育て世代にあたる20～40代の男性は「仕事を優先」が希望ではほとんど見られなかったのに対し、実際は約4割を占めている。また、男性有職（計）も「仕事を優先している」が約4割（37.6%）で最も多くなっており、女性有職（計）（17.3%）の2倍以上となっている。</li> </ul> <p><b>【問9 ワーク・ライフ・バランスの実現に重要なこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育園、学童保育などの育児環境を充実させること」が約5割（45.6%）で最も多くなっている。</li> <li>・次いで、「男女ともに労働時間の短縮を図ること」が約4割（39.8%）、「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実させること」が約3割（32.2%）となっている。</li> <li>・女性は、「男性の家事・育児・介護を進めること」や「パートタイムなどの女性の労働条件を向上させること」が男性を10ポイント以上上回っており、男性は、「男女ともに労働時間の短縮を図ること」が女性を10ポイント以上上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性で「賛成」が増加しているが、男性ではあまり変化は見られない。</li> <li>・男性30代で「賛成」が大きく減少し、「どちらかといえば賛成」、「どちらでもない」は増加している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（希望）について、女性で「仕事と家庭生活をともに優先したい」が減少しているが、男性ではあまり変化は見られない。</li> <li>・（実際）について、男性で「仕事を優先している」が増加しているが、女性ではあまり変化は見られない。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護、育児休業制度などの普及を図ること」は、男女ともに増加している。</li> </ul>

日頃の生活について

結果のまとめ	前回調査との比較
<p><b>【問10 夫婦の役割分担】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事や育児の項目は&lt;妻の役割&gt;（「妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の合計）が多く、特に『食事のしたく』は約9割（86.4%）、『洗濯』は約8割（80.4%）を占めており、『家計の管理』でも過半数（56.2%）となっている。</li> <li>・『家庭の重大事項の決定』は、「夫と妻と同程度」が約5割（50.3%）で最も多くなっているが、&lt;夫の役割&gt;（「夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」の合計）も約4割（41.2%）となっている。</li> <li>・&lt;妻の役割&gt;について、小・中学生を持つ女性は、小・中学生を持つ男性よりも『子どものしつけ』で約34ポイント、『子どもの教育』で約45ポイント上回っている。</li> </ul> <p><b>【問11 介護に関する男女の役割分担】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「女性も男性もともにするのがよい」は、女性が約8割（75.9%）、男性が約7割（67.1%）で最も多くなっている。</li> <li>・「女性が中心で男性も手助けするのがよい」は、女性が約1割（12.9%）、男性が約2割（15.7%）となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『食事のあとかたづけ』は、&lt;夫の役割&gt;が増加している。</li> <li>・『家計の管理（やりくり）』は、&lt;妻の役割&gt;が減少している。</li> <li>・『子どものしつけ』は、未就学児を持つ女性で「夫と妻と同程度」が減少し、「妻の役割」は増加している。</li> <li>・『子どもの教育』は、未就学児を持つ女性で「夫と妻と同程度」が増加している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・性別にみると、前回とほぼ同様の傾向となっている。</li> </ul>

## 子育てや教育について

結果のまとめ	前回調査との比較
<p>【問12 子どもにどのように育てほしいか】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女の子、男の子ともに「思いやりのある人」が最も多くなっている。</li> <li>・次いで、女の子は「言葉づかいや礼儀作法がいい人」、「素直な人」、男の子は「責任感のある人」、「身の回りのことは自分でできる人」が多くなっている。</li> <li>・女の子で「家庭を大事にする人」は、男性が女性を約10ポイント上回っており、男の子で「経済力のある人」は、女性が男性を約7ポイント上回っている。</li> </ul> <p>【問13 学校教育における施策の重要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにすること」が約7割（66.6%）で最も多くなっている。</li> <li>・次いで、「学習や指導の場で、男女平等・男女共同参画の意識を育てていくこと」が約5割（47.6%）となっている。</li> <li>・「学校生活の中で、児童・生徒の男女による役割分担をなくすこと」、「男女平等・男女共同参画の研修を通して教師自身の意識を変えていくこと」も約4割で比較的多くなっている。</li> <li>・「出席簿や座席などを男女で分ける習慣をなくすこと」は、男性が約2割（16.5%）、女性が約1割（9.1%）で男性が女性を約7ポイント上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女の子は、男性で「素直な人」が増加している。一方で、「言葉づかいや礼儀作法がいい人」は減少している。</li> <li>・男の子は、「思いやりがある」、「身の回りのことは自分でできる人」で増加傾向が見られる。</li> <li>・男の子は、女性で「経済力のある人」が減少している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校生活の中で、児童・生徒の男女による役割分担をなくすこと」は、増加傾向が見られる。</li> <li>・「男女平等・男女共同参画の研修を通して教師自身の意識を変えていくこと」、「学習や指導の場で、男女平等・男女共同参画の意識を育てていくこと」は、女性で変化は見られないが、男性では大きく減少している。</li> </ul>

暴力（DVなど）について

結果のまとめ	前回調査との比較
<p><b>【問14 暴力を受けた経験】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『大声でどなられた』という経験のある人は、女性が約3割（30.8%）、男性が約2割（20.4%）で最も多くなっている。</li> <li>・暴力に関するすべての項目で、女性が男性より被害経験が多くなっている。</li> </ul> <p><b>【問14付問1 暴力を受けたときの相談相手・アドバイス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相談しなかった（できなかった）」は、女性が約6割（56.3%）、男性が約7割（66.7%）で最も多くなっている。</li> <li>・相談相手は、「友人・知人」が約3割（27.1%）、「家族・親族」が約2割（23.6%）で多くなっているが、「まともに（真剣に）取り合ってもらえなかった」、「あなたが我慢すればよいと言われた」といったアドバイスを受けたという回答が一定数見られる。</li> <li>・どの相談先からも専門機関を紹介されたという回答は少なくなっている。</li> </ul> <p><b>【問14付問2 相談しなかった・できなかった理由】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相談するほどのことではないと思ったから」が約6割（57.5%）で最も多くなっている。</li> <li>・次いで、「自分にも悪い所があったから」が約3割（29.1%）で多くなっているが、女性が約2割（18.5%）で男性が約5割（46.0%）と男性が女性を約28ポイント上回っている。</li> <li>・「相談しても無駄だと思ったから」は、約2割（20.1%）となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暴力を受けた経験のある人は、全体的に減少傾向にあり、特に『大声でどなられた』が減少している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相談しなかった（できなかった）」は、男女ともに増加している。</li> <li>・相談相手として、「友人・知人」や「同じような経験をした女性・男性」が増加している。一方で、「相談しなかった（できなかった）」も大きく増加している。</li> <li>・前回調査では専門機関の紹介を受けたという回答は1件のみだったが、今回は、回答数は少ないもののほとんどの相談先で専門機関の紹介を受けたという回答があった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分にも悪い所があったから」が増加している。</li> <li>・「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」は減少している。</li> </ul>



## 仕事・職場について

結果のまとめ	前回調査との比較
<p><b>【問15 職業について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本調査に回答した市民の職業について、女性は専業主婦が約3割（25.3%）、男性は無職が約2割（18.8%）で最も多くなっている。</li> <li>・有職者は、女性が約6割、男性が約7割となっている。</li> </ul> <p><b>【問16 働いている理由】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性は「自分で自由に使えるお金を得るため」が約6割（55.9%）、男性は「生計を維持するため」が約8割（83.2%）で最も多くなっている。</li> <li>・「生計を維持するため」は男性（83.2%）が女性（50.5%）を約33ポイント、「住宅ローンなど借金返済のため」は男性（28.1%）が女性（11.4%）を約17ポイント、「働くことは当然であるため」は男性（37.3%）が女性（23.8%）を約14ポイントそれぞれ上回っている。</li> <li>・「自分の能力や資格を活かすため」、「仕事が好きであるため」、「視野を広げたり、友人を得たりするため」は、女性が男性を上回っている。</li> </ul> <p><b>【問17 仕事上の悩み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「賃金・諸手当が少ない」が約4割（41.6%）で最も多くなっている。</li> <li>・「人間関係がむずかしい」が次いで多く、女性が約3割（25.7%）、男性が約2割（16.8%）で女性が男性を約9ポイント上回っている。</li> <li>・「労働時間が長い」は、男性が約3割（26.5%）、女性が約2割（15.3%）で男性が女性を約11ポイント上回っている。</li> <li>・「仕事とプライベートの区別がない」は、女性が1割未満（0.5%）で回答者がほとんどみられない一方、男性は約1割（8.1%）となっている。</li> <li>・「性別による差別がある」（2.0%）、「性的指向・性自認による悩みがある」（0.5%）は、ともに1割未満となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で大きな変化は見られないが、男性で「無職」が大幅に減少している。</li> </ul> <p>●新規調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「休暇・休日が取りにくい」が男女ともに減少している。</li> <li>・「人間関係がむずかしい」が女性で増加している。</li> <li>・「労働時間が長い」は、女性で減少し、男性ではわずかに増加している。</li> <li>・「性別による差別がある」は、前回調査では回答がなかったが、今回は女性で回答が見られた。</li> </ul>

結果のまとめ	前回調査との比較
<p><b>【問18 働き方】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本調査に回答した市民の正社員の割合は、女性が約4割（41.4%）、男性が約7割（69.9%）となっており、男性が女性を約29ポイント上回っている。</li> <li>女性は、非正規雇用が過半数（53.3%）を占めており、男性の非正規雇用（24.8%）を約30ポイント上回っている。</li> </ul> <p><b>【問18付問 非正規雇用で働く理由】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女性は、「フルタイムの形を望んでいないから」が約4割（43.3%）、男性は、「採用に年齢制限があり、今の形態しか選べないから」が約5割（47.4%）で最も多くなっている。</li> <li>「育児・介護・子育てなどのため」は、男性の回答者がいない一方、女性は約2割（22.2%）となっている。</li> </ul> <p><b>【問19 昇進の意向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「思っていない」が男女ともに最も多くなっており、女性が約8割（75.1%）、男性が約5割（47.7%）となっている。</li> <li>「思っている」は、女性が約1割（5.9%）、男性が約2割（17.6%）で男性が女性を約12ポイント上回っている。</li> </ul> <p><b>【問19付問 昇進したい・した理由】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男女ともに「賃金が上がるから」が約6割（56.0%）で最も多くなっている。</li> <li>次いで、「自分自身で決められる事柄が多くなるから」が女性が約4割（42.1%）、男性が5割（50.0%）で多くなっている。</li> </ul> <p><b>【問20 職場での性別による差別】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「とくに男女の差別はない」が約5割（52.0%）で最も多くなっている。</li> <li>次いで、「女性の仕事は補助的業務や雑務が多い」が約2割（15.1%）、「男女で昇進・昇格の機会に差別がある」が約1割（12.9%）となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性で正社員が増加しているが、それ以外に大きな変化は見られない。</li> <li>「フルタイムの形を望んでいないから」は、女性で特に増加している。</li> <li>「育児・介護・子育てなどのため」が女性で減少している。男性は前回も回答者はいなかった。</li> </ul> <p>●新規調査</p> <p>●新規調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「とくに男女の差別はない」が男性で増加している。</li> <li>「男女で募集や採用で差別がある」や「女性の仕事は補助的業務や雑務が多い」は、増加している。</li> </ul>

## 【問21 (1) 育児休業の取得・意向】

- ・育児休業について「知っており、利用したことがある」は、女性が約1割(13.0%)、男性が1割未満(2.6%)で女性が男性を約10ポイント上回っている。
- ・20代・30代・40代の「利用するつもりである」は、正社員・正職員の女性が約3割(30.3%)、非正規雇用の女性が約1割(10.8%)で約20ポイントの開きがある。また、正社員・正職員の男性は約2割(18.2%)、非正規雇用の男性は1割(10.0%)で約8ポイントの開きがある。
- ・20代・30代・40代の「利用する必要性がない」は、約5割(54.7%)となっており、正社員・正職員の女性(63.6%)、非正規雇用の女性(67.6%)、男性(90.0%)で6割以上となっている。正社員・正職員の男性は約3割(32.7%)となっている。
- ・利用できない理由は、「職場で利用しにくい雰囲気がある」が約6割(57.7%)で最も多くなっている。

## 【問21 (2) 介護休業の取得・意向】

- ・介護休業について「知っており、利用したことがある」は、女性(3.6%)、男性(1.3%)ともに1割未満となっている。
- ・「利用するつもりである」は約2割(21.3%)で、「利用する必要性がない」は約5割(53.5%)となっている。
- ・20代・30代・40代の「利用するつもりである」は、正社員・正職員の女性が約3割(30.2%)、非正規雇用の女性が約2割(19.5%)で約11ポイントの開きがある。また、正社員・正職員の男性は約2割(16.1%)、非正規雇用の男性は約1割(10.0%)で約6ポイントの開きがある。
- ・20代・30代・40代の「利用するつもりはない」は、正社員の女性で回答が見られない一方、男性は約2割(21.4%)となっている。
- ・利用できない理由は、「職場で利用しにくい雰囲気がある」が5割(50.0%)で最も多くなっている。

## 【問22 今後の就労意向(無職の方)】

- ・「働きたくない」が約4割(40.4%)で最も多く、一方、「働きたいので、求職活動をしている」は約1割(9.6%)で最も少なくなっている。

- ・「はじめて聞いた」は、男女ともに増加している。
- ・20代・30代・40代の非正規雇用の男性は前回の回答者全員が「知っているが利用したことはない」、「はじめて聞いた」のいずれかを回答している。
- ・20代・30代・40代の「利用するつもりである」は、正社員・正職員の女性で減少し、「利用する必要性がない」は増加している。

- ・「はじめて聞いた」が男女ともに増加している。
- ・「知っているが利用したことはない」が女性で減少している。
- ・男性で「利用する必要性がない」は減少し、一方で、「利用するつもりはない」、「利用したいができない」は増加している。
- ・20代・30代・40代の「はじめて聞いた」が増加している。
- ・20代・30代・40代の「利用する必要性がない」は、正社員・正職員の女性で増加し、非正規雇用の女性で減少している。

- ・男性で「働きたくない」が増加し、「働きたいので、求職活動をしている」は減少している。

<p><b>【問22付問 希望する働き方（無職の方）】（※参考値）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・求職活動をしている人は、「正社員や正職員としてフルタイムの形で働きたい」が約6割（55.6%）で最も多くなっているが、性別では、女性が約6割（64.3%）、男性が約3割（25.0%）で女性が男性を約40ポイント上回っている。</li> <li>・求職活動をしていない人は、「パートタイムやアルバイトで自分の好きな時間に働きたい」が約5割（49.0%）で最も多くなっている。</li> </ul>	<p>（参考）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性で「正社員や正職員としてフルタイムの形で働きたい」が増加し、女性では「パートタイムやアルバイトで自分の好きな時間に働きたい」が減少し、「派遣社員や契約社員として働きたい」は増加している。</li> </ul>
---	--

**性の多様性について**

結果のまとめ	前回調査との比較
<p><b>【問23 性的少数者に関する言葉の認知度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『セクシュアル・マイノリティ』（34.4%）、『LGBT』（44.1%）、『レズビアン』（73.1%）、『ゲイ』（73.4%）、『バイセクシュアル』（55.7%）、『トランスジェンダー』（43.8%）、『カミングアウト』（57.0%）は、「内容まで知っている」が最も多くなっており、特に『レズビアン』（73.1%）、『ゲイ』（73.4%）は約7割を占めている。</li> <li>・「知らない」は、『アウティング』（73.2%）、『SOGI』（81.7%）で最も多くなっている。</li> </ul> <p><b>【問24 同性愛者やトランスジェンダーに対する寛容性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わからない」は、『親』（49.3%）、『兄弟姉妹』（42.8%）、『配偶者』（45.3%）、『子ども』（46.8%）が4割台で最も多くなっている。</li> <li>・「受け入れられない」は、『配偶者』（33.7%）・『親』（25.6%）がともに約3割で、「わからない」に次いで多くなっている。</li> <li>・「受け入れられる」は、『友人・知人』（55.4%）で最も多くなっている。</li> <li>・身近な人すべての項目で、「受け入れられる」は女性が男性を上回っており、「受け入れられない」は男性が女性を大きく上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新規調査</li> <li>●新規調査</li> </ul>

結果のまとめ	前回調査との比較
<p><b>【問25 同性婚に対する賛否】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・&lt;認めるべきだと思う&gt;（「認めるべきだと思う」と「どちらかという認めるべきだと思う」の合計）は、約7割（65.8%）を占めているが、女性が約7割（72.6%）、男性が約6割（57.6%）で女性が男性を15ポイント上回っている。</li> <li>・&lt;認めるべきではないと思う&gt;（「認めるべきではないと思う」と「どちらかという認めるべきではないと思う」の合計）は、約1割（14.2%）となっているが、女性が約1割（7.0%）、男性が約2割（23.9%）で男性が女性を約17ポイント上回っている。</li> </ul> <p><b>【問26 性の多様性を意識した指導に対する賛否】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・&lt;行ったほうがよい&gt;（「積極的に行ったほうがよい」と「どちらかという行ったほうがよい」の合計）は、約6割（63.7%）を占めている。</li> <li>・&lt;行わないほうがよい&gt;（「行わないほうがよい」と「どちらかという行わないほうがよい」の合計）は、約1割（11.1%）となっている。</li> <li>・「わからない」は、約2割（23.5%）となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新規調査</li> <li>●新規調査</li> </ul>

## 男女平等・男女共同参画を進める市の施策について

結果のまとめ	前回調査との比較
<p><b>【問27 TAMA女性センターの周知・利用について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「利用したことがある」は、1割未満（2.0%）となっている。</li> <li>・「知らない」は、女性が約7割（66.5%）、男性が約8割（80.8%）となっている。</li> </ul> <p><b>【問27付問1 施設運営上の要望事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わからない」が全体で約3割（27.8%）となっており、男女ともに最も多くなっている。</li> <li>・「わからない」を除くと「男女平等・男女共同参画に取り組むグループの活動を積極的に支援すること」が約2割（22.7%）で最も多くなっている。</li> <li>・次いで、「女性の職業能力開発・就業・起業などを支援すること」が約2割（19.5%）、「男性も利用しやすいようにすること」が約2割（18.9%）となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知度は、大きな変化は見られない。</li> <li>・男性で「わからない」が減少している。</li> <li>・女性で「男性も利用しやすいようにすること」が増加し、「女性の職業能力開発・就業・起業などを支援すること」は減少している。</li> </ul>

<p><b>【問27付問2、3 名称について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「このままでよい」(24.2%)と「変えたほうがよい」(23.2%)が約2割で同程度となっている一方、「わからない」が約5割(46.9%)を占めている。</li> <li>・「TAMA女性センター」以外の名称に関する自由意見が69人から寄せられ、具体的な名称についての意見(41件)が最も多かった。</li> </ul> <p><b>【問28 男女平等参画社会の視点に立った災害に強いまちづくりに必要なこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「女性用品、乳幼児用品など、必要な物資について、十分な量を備蓄すること」が約6割(58.0%)で最も多くなっている。</li> <li>・次いで、「倉庫業者、運送業者、スーパー等の事業者などと協定を締結し、災害発生時に速やかに調達・輸送できるようにすること」が約6割(56.7%)となっており、女性とともに約6割(62.9%)で特に多くなっている。</li> <li>・「自主防災組織における女性の参画を促進すること」は、男性が約2割(24.7%)、女性が約1割(14.1%)で男性が女性を約11ポイント上回っている。</li> </ul> <p><b>【問29 多摩市が推進する施策の力点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「男女ともに働きやすい環境の整備」が約5割(51.4%)で最も多くなっており、性・年代別では20代女性が約8割(83.3%)、20代男性が7割(70.0%)で最も多くなっている。</li> <li>・次いで、「保育・高齢者問題などの福祉の充実」約4割(36.9%)となっている。</li> <li>・「保育・高齢者問題などの福祉の充実」は、女性が約4割(44.1%)、男性が約3割(28.2%)で女性が男性を約16ポイント上回っている。</li> </ul>	<p>●新規調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「女性用品、乳幼児用品など、必要な物資について、十分な量を備蓄すること」が男女ともに大幅に増加している。</li> <li>・「防災会議や消防団に女性を増やすこと」、「自主防災組織における女性の参画を促進すること」が特に男性で減少している。</li> <li>・「男女ともに働きやすい環境の整備」、「ドメスティック・バイオレンス(DV)やセクシュアル・ハラスメント、ストーカーなど暴力をなくすための取り組み」が女性で増加している。</li> </ul>
---	---